

## 太子町では幼小中一貫教育を推進します

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、一人一人の可能性を最大限に伸ばすためには、急速な社会の変化や子どもたちの心身の発達状況の変化に、教育内容や方法を的確に対応させながら、教育活動をすすめることが必要です。

こうした観点から、太子町では幼稚園・小学校・中学校の学び・育ちを12年間の連続性のもとで捉え直し、状況に応じた小中一貫教育を展開していきます。

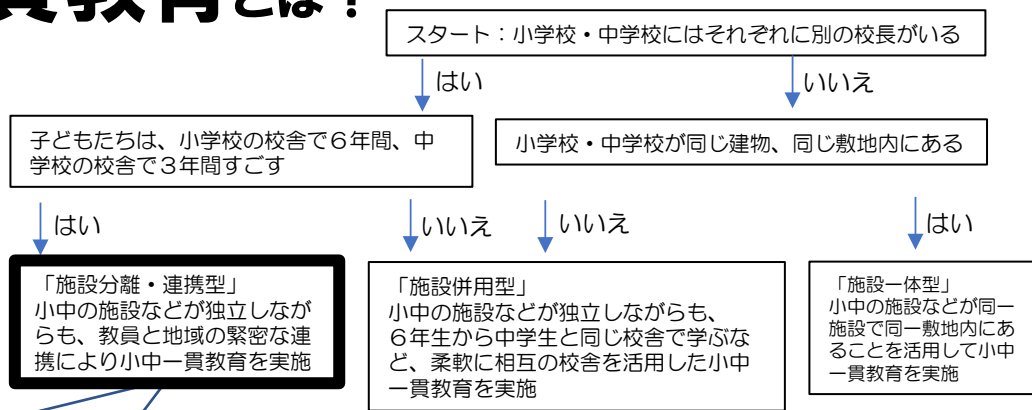


No.1

## 幼小中一貫教育とは？

幼小中一貫教育と聞いて、学校が統廃合され、一つの建物に幼小中の子どもたちがいると思いがちですが、実は様々な形態があります。太子町は施設分離・連携型です。

小中一貫フローチャート



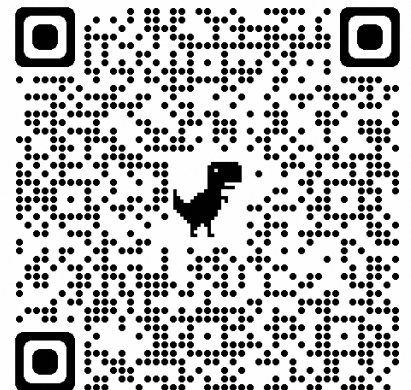
太子町は「施設分離・連携型」

## 3年計画の1年目！ 幼小中一貫教育に関する保護者の声を聞かせてください

小中一貫教育と小中連携はよく似ていますが、違うものになります。違いは小中で育む子ども像を共有し、系統的な（一貫した）カリキュラムを持つか、持たないかです。太子町では3年間かけて、系統的なカリキュラムの交流をおこないながら、幼小中一貫教育を進めています。今年3年計画の1年目として位置付け、1年目のテーマは「教職員の交流」としました。校種も違えば、学校文化も違うことから、まずは先生方がそれぞれの学校のことを知って、それぞれの学校の先生同士が今まで以上に交流を深めることを中心に実施します。

幼小中一貫教育を進めるために欠かせないのが保護者の皆さんの声です。

下の二次元コードをスマホ・カメラでよみとっていただくと、アンケート画面になりますので、ぜひご協力いただければ幸いです。



（対象は保護者のみ）

## 太子町の幼小中一貫教育が目指すもの

子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、一人一人の可能性を最大限に伸ばすため太子町では幼稚園・小学校・中学校の学び・育ちを12年間の連続性のもとで捉え直し、状況に応じた小中一貫教育を進めます。



No.2

それら教育を通して、これからさらに加速する社会変化に対応する力として「非認知能力」に注目し、非認知能力の育成を重点的におこないます。

これまでの社会は、知識・技能といった「認知能力」が評価の基準となり、その知識や技能を身につければ社会で対応できると言われていました。

しかし、これからは社会や生活が急速に変化し、予測ができない時代（VUCAの時代）と言われています。その社会変化に対応する力として「非認知能力」が注目されています。現行の学習指導要領でも「学びに向かう力、人間性等」として非認知能力として取り上げられ、注目されている力です。

<b>V</b> olatility 変動性	<b>U</b> ncertainty 不確実性
<b>C</b> omplexity 複雑性	<b>A</b> mbiguity 曖昧性

## 認知能力も非認知能力も大切にする太子町の幼小中一貫教育

幼小中一貫教育の中心的なカリキュラム構成の一つが「非認知能力」をテーマとした取り組みです。令和4年8月に開催した太子町立小中学校園の全先生方対象の研修で、太子の子どもの良いところ・課題・義務教育後について欲しい力、そしてこれまでの教育実践で大切にされてきた「非認知能力」について考える機会を設けました。そこでの議論と前回の本通信でご協力をお願いした保護者アンケートの結果も交えて、幼小中一貫教育で育む「子ども像」「太子町で育む主な非認知能力」としてまとめました。

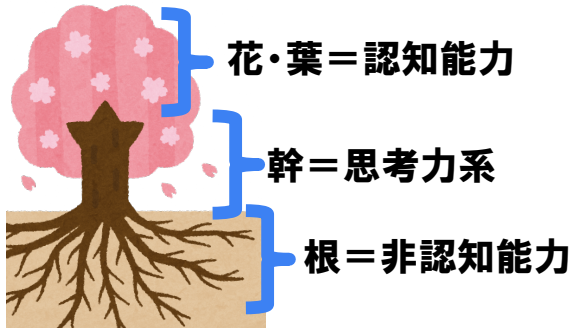
### 幼小中一貫教育で育む人

幼小中のつながりをもとに

豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため

自ら考え、動き、相手を大切にできる人

# 非認知能力とは？



「非認知能力」とは、客観的な数値では測りにくい力と主に言われています。一方、テストを通して客観的な数値で測ることが可能な能力を「認知能力」といいます。

つついテストの点数など認知能力の部分を見てしまいがちですが、「認知能力と非認知能力はどちらが良いのか？」などではなく、それらは表裏一体の関係にあります。立派な桜の木があったとして、目で見えて美しいと感じる桜の花を認知能力（テストで測れる力）とすると、根の部分が非認知能力になります。根がきちんとしていなければ、立派な桜の花は咲きませんし、大きな台風が来たら倒れてしまうかもしれません。立派な花を咲かすには、しっかりとした根が必要になります。非認知能力がしっかりと育まれている子どもは様々な変化があったときでも、倒れず、置かれた場所で自分なりの花を咲かすことができる人になるのではないのでしょうか。

## 太子町で育む主な非認知能力

様々な非認知能力がある中で、太子町では主に3つのグループの力「自分を高める系の力・自分と向き合う系の力・つながる系の力」を軸に取り組みます。それらをわかりやすく細分化した以下の7つの力を「太子町で育む主な非認知能力」としてまとめました。次号からは各学校での取り組みを紹介します。

### 自分を高める系



**目標を持つ力**  
(夢・目標を持つ)

**挑む力**  
(やってみる・挑戦)

### 自分と向き合う系



**あきらめない力**  
(粘り強さ)

**自己調整力**  
(自分を調整する力)

### つながる系



**伝える力** (気持ち・意見を)

**受け入れる力** (相手を)

**協働する力**



# Start Line

太子町幼小中一貫教育の今をお伝えします

太子町教育委員会事務局通信

## 各校での非認知能力を育む実践！

太子町では夏季教職員研修を通して、非認知能力について幼小中すべての先生方で考えました。講師として岡山大学で非認知能力の研究をされている徳留宏紀さんにお越しいただきました。夏季研修で先生方は非認知能力を育む2学期の実践を計画されました。今回からは各学校での非認知能力を育む取り組みを紹介します！



No.3

## つながる系の力を育む実践



伝える力（気持ち・意見を）

受け入れる力（相手を）

協働する力

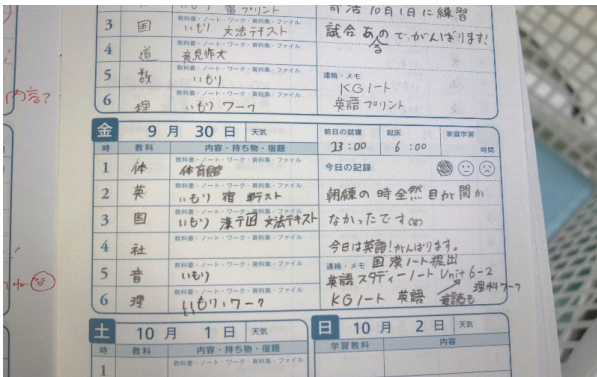


徳留宏紀さん

（太子町非認知能力アドバイザー）

昨年度まで大阪府公立中学校勤務今年度からは岡山大学大学院で非認知能力について研究。

### ★ 中1 日々の連絡帳を使って日記を！



◇学年：1年生 担任

◇工夫

2学期から、毎日の連絡帳の「今日の記録」の欄に、一日の感想（日記）を書くようにして、それに対して、担任のコメントを入れて返すギミックを取り入れた。毎日クラスの生徒全員と日記でコミュニケーションをとることをしている。

◇効果：生徒の気持ちの変化や、悩み事、直接には言いにくいことなど、コミュニケーションのツールとして、活用している。

日記を用いた実践は、自分を客観的に捉える力である『メタ認知』を育むことができます。そしてそのメタ認知こそ非認知能力の向上に欠かせないものです！



### ★ 3・4歳児クラス ダンスの振り付けをみんなで考えよう！

・3歳児は、1学期、農園で育てたプチトマトを喜んで収穫した経験を基に、「プチトマト」を、4歳児は子どもたちが好きな「恐竜・怪獣」をテーマにしたダンス曲を用意した。

・最初は曲の全体のイメージをつかめるようにと、元々あった振付を真似て楽しく踊ることを経験できるようにした。

・曲に慣れてきた頃、子どもたちが振付を考えてみることを提案した。

・一人一人の考えた振付を取り入れ、繋ぎ合わせ、全員が自信をもって取り組んでいけるようにした。



それぞれの考えを出し合う中で、自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりする経験ができた。





## 各校での非認知能力を育む実践！ 運動会を通じた実践！



No. 5

山田小編

### 自分を高める系



目標を持つ力  
(夢・目標を持つ)

挑む力  
(やってみる・挑戦)

### つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)  
受け入れる力 (相手を)  
協働する力



### 団体演技(応援団)

三年ぶりに開催という中で、応援団の児童が紅白に分かれ、グループで拍子やエール等を考えた。紅白のチームで休み時間に話し合いや練習を重ね、必要に応じて全体で話し合いや、応援合戦の見せあいをして、児童全体のために頑張っていた。

非認知能力向上において、異学年での交流は非常に効果的です。憧れとしての先輩の姿、仲間と交流し支え合う場面、これこそまさに成長できるきっかけなのです！

徳留宏紀さん (太子町非認知能力アドバイザー)

### 団体演技(ダンス)

5・6年生 団体演技で披露するダンスを有志で考え、全体に伝達し、完成をめざした。

3・4年生 これまでは教員から全体にダンスの内容を伝達していたが、今年度は、まずダンスリーダーに伝達した。ダンスリーダーを中心にいくつかのグループを作り、グループごとにダンスの完成をめざし、全体での完成につなげた。





## 各校での非認知能力を育む実践！ 学習発表会を通じた実践！ 磯長小編



No. 6

磯長小学校では3年ぶりに2学期、3学期の参観で、それぞれ3学年が体育館で学習発表を行います。2学期に学習発表をする学年は2・3・5年生です。全学年のトップを切って11月15日（火）に5年生が学習発表会の参観を行いました。発表内容は古文・詩・英語の群読や合唱・合奏です。発表形式の取組はコロナ以前から自己有用感を高める絶好の行事として取り組んでいました。**今年度はさらに、非認知能力の育成という意識で取り組みました。**

子どもたちにとって体育館という教室より大きな所で発表をすることはとても緊張することです。しかし、日頃みんなの前で大きな声を出すのが苦手な児童も、みんなと一緒に練習を重ねるとどんどん大きな声になり、練習も一生懸命取り組むようになります。みんなが同じ目的に取り組むことの一体感がそれぞれの頑張りを生み出すよさがあります。



### 自分を高める系



目標を持つ力  
(夢・目標を持つ)

挑む力  
(やってみる・挑戦)

### つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)

受け入れる力 (相手を)

協働する力

## 5年生の実践



素晴らしい取り組みですね！  
人への感謝は、他者の思いに  
共感することから始まります。  
まさに非認知能力のたまもの  
ですね。

徳留宏紀さん (太子町非認知能力アドバイザー)

昨年度まで大阪府公立中学校勤務。今年度からは岡山大学大学院で非認知能力について研究。

今回の5年生は発表の練習を始める前に、それぞれ何を伝えたいのかを考えさせることをしました。多くの子どもたちが「感謝」という言葉をあげました。

続いて「感謝」を伝える発表とはどういうものかを考えるように伝えると、子どもたちは練習で声の大きさだけでなく、きびきびした動作や姿勢のよさなどを自分たちで気をつけるようになりました。

一つのクラスでは発表前に今の気持ちを書いてもらいました。内容は不安な気持ちを持っていたり、わくわくした気持ちを持っていたり様々でしたが、緊張感を持っており、自分のことを見つめることができていました。当日の発表はこちらが思っているより、群読も合唱も合奏も素晴らしいものを保護者の方に見てもらうことができました。また、発表後に保護者からの感想をもらうことで、自分たちの頑張りは、人を感動させ、喜んでもらえるものになることを更に実感できたと思います。子どもたちがそれぞれ保護者の方に「感謝」を伝えることができたと思います。



## 各校での非認知能力を育む取り組み 小学2年生 生活科を通じた実践！



No.7

### つながる系 山田小



伝える力（気持ち・意見を）

受け入れる力（相手を）

協働する力

「紙コップを使った遊び」

3～4人グループで紙コップを使った遊びを考案。  
体育館にてグループごとにブースを作り、集客・接客をする。2年生同士で練習・リハーサルをおこない、以下の日程で交流した。

- ・10月21日（金）参観日 保護者と交流
- ・10月25日（火）支援学級児童と交流
- ・10月27日（木）1年生児童と交流

企画・立案・実践を仲間と話し合いながら行った。はじめはうまくいかないことも多かったが、様々な対象と交流を経ることで、うまくいくこと、うまくいかないことが明確になった。その都度、グループ内で改善を行った。

自分たちが「おもしろい」と思うことも、相手にとって「おもしろい」ことなのかはやってみないとわからないことに気づき、どうすれば相手に「おもしろい」と思ってもらえるのか時間をかけて考えることができた。



## 中学2年生 太子中 職業体験を通じた実践！

### 自分と向き合う系



自己調整力  
（自分を調整する力）

あきらめない力  
（粘り強さ）

### 自分を高める系



目標を持つ力  
（夢・目標を持つ）

挑む力  
（やってみる・挑戦）



◇学年：2年生（職業体験）

◇ギミック（工夫したところ）

職業体験で事業所に行く前に、「なぜ働くのか」「なぜ勉強するのか」など、働くことについての実感を持てるように、事前学習として、Panasonicの方に、「働くうえで大切なこと」を直接講演してもらう機会をつくった。

◇効果：教師からではなく、実際に企業で働く方と接することで、「働くこと」に対する実感が増し、より具体的に今何をすべきなのかを考える時間となった。

他者目線に立つことは、つながる上で大切なことです。そこから共感する心も育まれていきますね。実生活とつながる学びは効果絶大です！素晴らしい取り組みですね。

徳留宏紀さん（太子町非認知能力アドバイザー）

昨年度まで大阪府公立中学校勤務。今年度からは岡山大学大学院で非認知能力について研究。

## 各校での非認知能力を育む取り組み 文化祭の意見作文発表会 太子中



No.8

中学校では、全生徒が夏休みに日常生活で感じたことや考えたことを作文としてまとめ、2学期に入ってからクラスメートの前で発表する取り組みがある。クラス発表で代表を決めた後、学年代表を決める発表会を学年ごとに行った。学年代表は文化祭で全校生徒の前で発表を行った。

### つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)  
受け入れる力 (相手を)  
協働する力

### 自分と向き合う系



自己調整力  
(自分を調整する力)  
あきらめない力  
(粘り強さ)

### 自分を高める系



目標を持つ力  
(夢・目標を持つ)  
挑む力  
(やってみる・挑戦)

### ◇ギミック (工夫したところ)

「自分の考えをまとめて文章にし、自分の意見としてみんなに発信する」という言語能力と発信力の向上に取り組んでいる。

◇効果：家族のこと、友達のこと、いじめ問題や戦争についてなど、身のまわりで起こっていることを「自分事」として捉えるよう意識づけをしている。

全校生徒の前で発表することは勇気のあることであり、全員が発表することで、「挑む力」「伝える力」「あきらめない力」を育むと考える。また、発表する緊張感を誰しもが経験することで、「受け入れる力」「協働する力」が育まれ、発表を聞く態度の育成にもつながるとも考える。



## やってみよう！ 町立幼稚園

運動会を経験した子どもたちは、達成感を味わい、成功したことでさらに自信がついてきています。

現在、各学年「フラフープ」や「竹馬」「縄跳び」へと遊びが移行しながら、子どもたち自ら遊びたいことを選び、挑戦する姿が見られています。日々の積み重ねが子どもたちの姿に変化をもたらせます。子どもたち自身も自分の姿の変化に気付いています。「ちょっとできるようになった」「あそこの線までやってみよう」「あぁ悔しいー」「今度こそは・・・」「やったーできた」「できるって たのしいー」その時その時、色々な感情を味わっています。

とにかく、周りの大人は頑張っていることを認め、褒め、子どもたちが思わずやってみたくくなるような言葉がけやスモールステップの目標を持てるようにすることを大切にしています。目標を達成することはもちろん大切なことですが、達成するまでのプロセスが何より大切と感じています。



徳留宏紀さん  
太子町非認知能力アドバイザー

みんなで取り組むからこそ、他者への敬意尊重も生まれますね！お互いが一緒に高め合える関係になってますね。引き続き、達成するまでのプロセスを非認知能力のレンズで見取って価値づけしていきましょう。

裏面もご覧ください！



# 町立幼稚園の幼児教育と非認知能力について 講演会を開催しました。



11月26日（土）太子町立幼稚園で土曜参観がおこなわれました。普段の幼児教育を保護者の方にみていただき、どの子ども生き生きと楽しそうに取り組んでいました。

参観後におこなわれたのが、太子町非認知能力アドバイザーの徳留さんによる講演会。太子町教育委員会から幼小中一貫教育の説明をおこない、その後「幼児期こそ育みたい非認知能力」として講演会がございました。

講演会にご参加くださりました保護者の方の感想を一部紹介します。

- ・園での環境を考えると町立幼稚園に通えていること、また、それが小中学校と連携されていることに安心感も感じました。
- ・非認知能力という言葉を知りましたが、子供の成長にとってとても大切なことだと知りました。本日の講演は子供との関わり方を見直す良い機会になりました。

その他にも「さらに具体的な取り組みを聞きたい」という具体的な日々の子育てにおける実践例を学びたいという声もいただき、今後の取り組みの参考となるご意見もありました。

当日の講演を記録した映像を上  
のQRコードをスマホカメラなどで読  
み取っていただくと、ご覧いただく  
ことができます。

## 1月からは広報「たいし」で 幼小中一貫教育の今をご紹介します！

2学期より太子町立の学校園で実践されている非認知能力を伸ばす取り組みを本通信を通して発信してきました。日々の教育活動を学校園の枠を超えて知っていただき、太子町の公教育についての理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。

2学期に8号発行いたしました本通信ですが、1月からは太子町広報誌「広報たいし」にて連載することが決まりました。

広報誌への掲載に伴い、本通信は一旦終了となります。日々、学校園ではお子様のために何ができるのか、どういった力を伸ばしたらよいのか、など考えこれからも教育活動を実践していきます。

今後とも太子町の公教育をよろしくお願いたします。



画像はイメージ  
1月号から掲載予定

2022  
12  
No.577